

おぼえていますか
なつかしの、たかはま場所



▲市立図書館前（碧海町）の土俵開きのようす。現在も屋根が残っている。（昭和58年）



▲高取小学校の土俵開きのようす。くいいるようにつめる児童。（昭和47年）

高見山関に挑む児童たち。この年は雨により吉浜小学校体育館で行われた。（昭和49年）



お相撲さんがやってきた

「そういえば子どものころ、学校にお相撲さんが来たなあ」という記憶のある方もいるのではないだろうか。

昭和47年6月の『広報たかはま』には、高取小学校の一隅に土俵場が誕生したと記載がある。市内の有志やPTAの協力で、高砂部屋の力士を迎えた土俵開きが開催された。校舎の前の立派な土俵で、子どもたちが力士に挑む姿や、運動場で力士とかけっこする写真も残されている。

また、昭和49年7月の広報には、吉浜小学校での相撲教室のようすが紹介されている。吉小児童だった方は「そのころ吉小の運動場にも土俵がありました。高見山関に集団でかかっていった記憶があります。力士が泊る近所のお宅を見に行った思い出もあるなあ。」と教えてくれた。

力士招待に協力したひとり、神谷義孝さん（芳川町）によると、当時、水虫の子どもの多いと聞き、相撲関係者に話したら、それなら裸足で外を走り回るのがいちばんと言われたというも、相撲教室開催のきっかけだという。もちろん、力士のように心身ともに剛健であれと子どもたちに期待する気持もあったはずだ。

昭和58年には、碧海町の市立図書館の前に土俵館が作られた。ときの人気力士を招いて土俵開きが開催されたようだ。土俵の覆い屋根が現在もある。“たかはま場所”を懐かしく思い出してみては。

“撮っておき” の たかはま

【第88回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、
有形・無形を問わず、
高浜市の日常の暮らしの中にある
とっておきの「お宝」を紹介します。

9月3日(日)総合防災訓練

「タオルで知らせる家族の安否」

午前7時30分

見えるところにタオルをかけて訓練に参加しましょう！

※詳しくは6ページ



LEIA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語は19ページ

早期配布にご協力ください。